

Ⅱ 畜産物の価格安定業務

1 指定乳製品

(1) 概況

ア 乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数

飼養戸数は、昭和 38 年の 41 万 7,600 戸をピークにその後毎年減少し、平成 22 年 2 月 1 日現在では前年に比べて 5.2%減の 2 万 1,900 戸となった。近年における戸数の減少は、経営者の高齢化と後継者不足等に加え、飼料価格の高騰など酪農情勢が厳しさを増していることにより、小規模層を中心に離農するケースが増えたためと考えられる。

次に、飼養頭数について見ると、飼養戸数の減少を反映して、前年に比べて 1.1%減の 148 万頭となった。飼養戸数の減少と規模拡大傾向を反映して、1 戸当たりの飼養頭数は、前年の 64.9 頭から 67.8 頭とやや増加した。(第 5 表参照)

第 5 表 乳用牛の飼養戸数・飼養頭数

区 分 調査年月日	飼 養 戸 数		飼 養 頭 数		1 戸当たりの飼養頭数	
	戸 数 (千戸)	前年比 (%)	頭 数 (千頭)	前年比 (%)	頭 数 (頭)	前年比 (%)
21. 2. 1	23.1	94.7	1,500	97.8	64.9	103.3
22. 2. 1	21.9	94.8	1,484	98.9	67.8	102.9

資料：農林水産省「畜産統計」

イ 生乳の需給

平成 21 年度の生乳生産は、指定生乳生産者団体による増産型の計画生産が実施される中、北海道が前年度比 100.6%となったものの、都府県が同 97.8%と減少したことから、全国計で同 99.2%となった。

次に、牛乳等向け生乳処理量について見ると、大部分を占める牛乳の需要が引き続き減退したことから、同 95.5%と前年度をやや下回った。(第 6 表参照)

第 6 表 生乳生産と用途別処理量

(単位：千ト、%)

区分 年度	生乳生産量		処 理 内 訳					
			牛乳等向け		乳製品向け		その他向け	
	数 量	前年度比	数 量	前年度比	数 量	前年度比	数 量	前年度比
17	8,293	100.1	4,739	96.7	3,472	105.2	82	100.6
18	8,091	97.6	4,620	97.5	3,389	97.6	82	99.7
19	8,024	99.2	4,508	97.6	3,433	101.3	83	101.7
20	7,945	99.0	4,415	97.9	3,451	100.5	80	95.9
21	7,881	99.2	4,217	95.5	3,588	104.0	76	95.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

ウ 指定乳製品の生産量

平成 21 年度のバター及び脱脂粉乳の生産量は、牛乳等向け生乳処理量の減少に伴い、それぞれ前年度比 114.0%及び 109.6%と増加した。脱脂加糖れん乳は同 79.7%と大幅に減少したが、全脂加糖れん乳は同 98.4%とわずかに前年度を下回った。(第 7 表参照)

第 7 表 指定乳製品の生産量

(単位：トン、%)

区分 年度	バター		脱脂粉乳		全脂加糖れん乳		脱脂加糖れん乳	
	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比
17	85,467	106.1	189,737	103.9	32,282	91.6	6,723	113.3
18	78,001	91.3	177,036	93.3	36,112	111.9	6,053	90.0
19	75,058	96.2	171,441	96.8	36,453	100.9	6,140	101.4
20	71,898	95.8	155,282	90.6	38,340	105.2	6,119	99.7
21	81,972	114.0	170,179	109.6	37,730	98.4	4,879	79.7

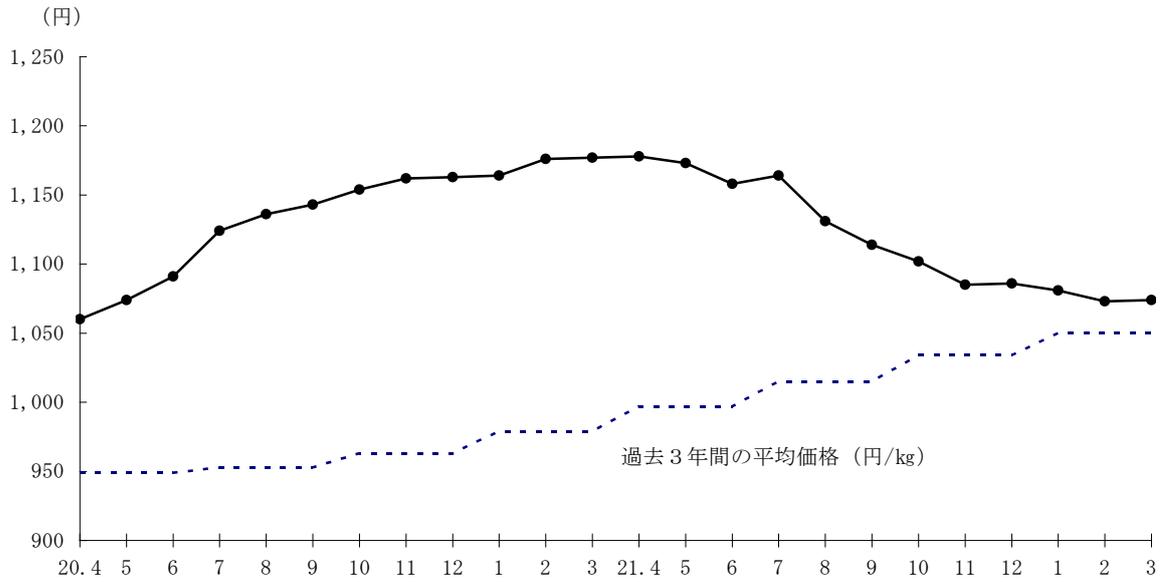
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

エ 指定乳製品の価格動向

バターの市況（大口需要者向け価格：農林水産省牛乳乳製品課調べ、以下同じ。）は、生産量の増加を反映して、平成 21 年度 8 月以降前年を下回って推移し、年度末においては 1,074 円/kg（前年度比 91.2%）となった。

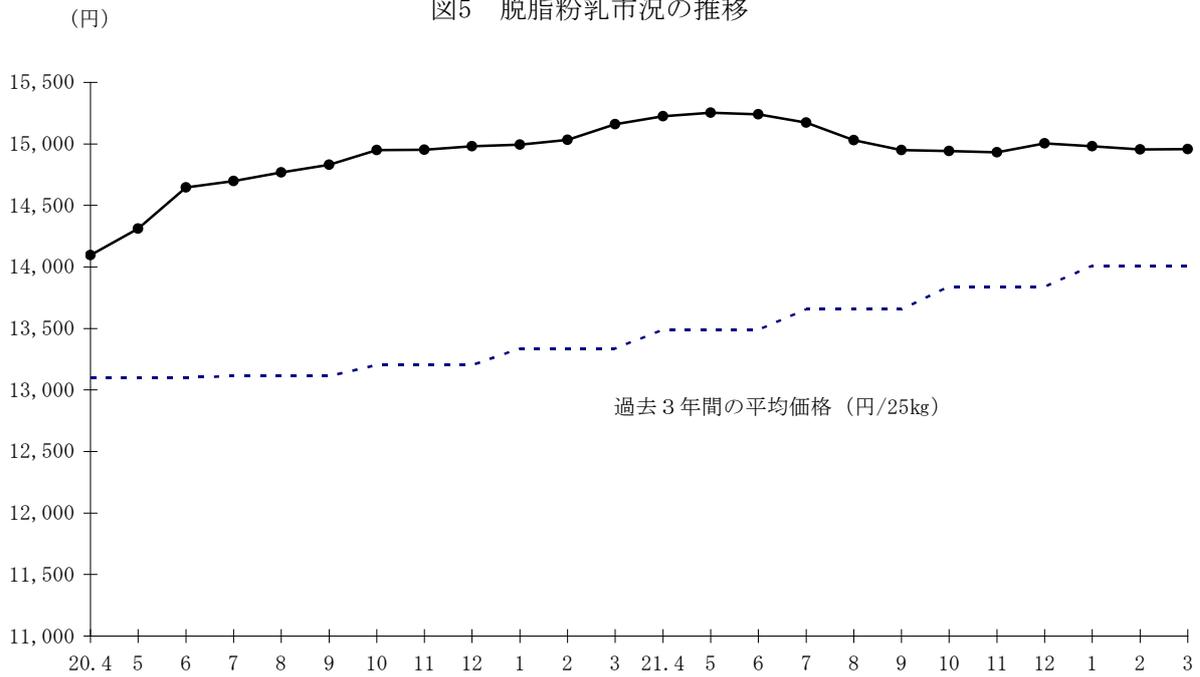
脱脂粉乳の市況も、バターと同様の傾向を示し、平成 21 年度 10 月以降ほぼ前年を下回って推移し、年度末においては 14,957 円/25 kg（同 98.7%）となった。（図 4、図 5 参照）

図4 バター市況の推移



注：価格は消費税込みである。

図5 脱脂粉乳市況の推移



注：価格は消費税込みである。

(2) 指定乳製品等の輸入及び売渡し

脱脂粉乳については、平成 17 年度に実施して以来 4 年ぶりにカレントアクセス分として前年度の平成 21 年 1 月に 6,843 トンの輸入契約を締結、21 年 4 月から 7 月にかけて現品を売り渡した。

また、併せて、国内の乳製品需給が緩和状況にある中であって、カレントアクセスを履行するため、国内市場に比較的影響の少ない S B S (売買同時入札) 品目による輸入・売渡入札を実施した。具体的には、ホエイ及び調製ホエイ 8,441 トン、デイリースプレッド 505 トンの契約を締結したほか、新たな品目としてバターオイル 115 トンの契約を締結した。このほか、年度末にはバター 1,668 トン及び脱脂粉乳 1,013 トンの輸入契約を締結した。

機構以外の者に係る指定乳製品等の輸入 (T E による輸入) については、買入・売戻件数は 563 件で、その数量は 412 トンとなった。

第 8 表 指定乳製品等の輸入入札・検収状況

入札年月日	品目	輸入入札数量	落札数量	検収数量	備考
21.01.21	脱脂粉乳	8,000 トン	6,843 トン	6,138 トン	21年度カレントアクセス分
22.03.09	バター	1,668 トン	1,668 トン	0 トン	同上
22.03.11	脱脂粉乳	1,013 トン	1,013 トン	0 トン	同上

第 9 表 指定乳製品等の売渡入札状況

入札年月日	品目	売渡入札数量	落札数量	備考
21.04.21	脱脂粉乳	1,866 トン	1,252 トン	21年度カレントアクセス分
21.05.19	脱脂粉乳	3,005 トン	1,345 トン	同上
21.06.10	脱脂粉乳	3,542 トン	2,171 トン	同上
21.07.08	脱脂粉乳	1,370 トン	1,370 トン	同上

第 10 表 脱脂粉乳の売買状況

品目	期首在庫	買入数量	売渡数量	期末在庫
脱脂粉乳	0 トン	6,138 トン	6,138 トン	0 トン

第 11 表 ホエイ及び調製ホエイ（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
20.11.26	2,250 トン	2,250 トン	475 トン	20年度カレントアクセス分
21.05.26	3,000 トン	3,000 トン	2,964 トン	21年度カレントアクセス分
21.09.17	6,000 トン	5,441 トン	3,410 トン	同上
計	-	-	6,849 トン	

第 12 表 デイリースプレッド（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
21.10.29	1,500 トン	505 トン	170 トン	21年度カレントアクセス分
計	-	-	170 トン	

第 13 表 バターオイル（SBS方式）の売買状況

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
22.02.09	500 トン	116 トン	0 トン	21年度カレントアクセス分
計	-	-	0 トン	

2 指定食肉

(1) 牛肉

平成 21 年度の東京及び大阪の中央卸売市場における牛枝肉省令規格(去勢牛「B-2」及び「B-3」)の加重平均卸売価格は、景気後退の影響を受けて前年度より 4.5% 下落したものの、年度を通じて安定基準価格を上回って推移したことから、機構による買入れ等の措置には至らなかった。

第 13 表 牛枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令価格（去勢牛肉「B-3」及び「B-2」）	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)
平成 17 年度	1,336	106.5
平成 18 年度	1,292	96.7
平成 19 年度	1,186	91.8
平成 20 年度	1,083	91.3
平成 21 年度	1,034	95.5
21 年 4 月	1,059	90.1
5 月	1,074	92.7
6 月	1,016	94.4
7 月	1,015	95.2
8 月	1,006	95.3
9 月	999	94.1
10 月	1,020	94.0
11 月	996	94.9
12 月	1,115	100.9
22 年 1 月	1,008	93.3
2 月	1,042	99.5
3 月	1,043	101.8

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

(2) 豚肉

平成 21 年度の東京及び大阪の中央卸売市場における豚枝肉省令規格(「上」以上)の

加重平均卸売価格は、生産量の増加等から 7 月中旬以降急速に値下がりしたことから、10 月から豚肉価格安定緊急対策事業(畜産振興事業)による、全農ほか 2 者の調整保管が行われた。この結果、卸売価格は、年度後半に入って回復に転じたものの、年度平均では 431 円と前年度を 13.1% 下回った。

第 14 表 豚枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令規格	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)

平成 17 年度	473	99.8
平成 18 年度	479	101.3
平成 19 年度	519	108.4
平成 20 年度	496	95.6
平成 21 年度	431	86.9
21 年 4 月	410	74.1
5 月	481	85.3
6 月	511	84.9
7 月	487	81.6
8 月	397	68.8
9 月	389	74.1
10 月	388	91.5
11 月	401	96.2
12 月	453	98.7
22 年 1 月	416	106.9
2 月	419	97.9
3 月	415	97.6

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

3 鶏卵

平成 21 年度の鶏卵の平均卸売価格（東京、M規格）は、需要減少により下落傾向で推移し、年度平均では前年度より 9.3%値下がりしたが、機構による調整保管等の措置には至らなかった。

なお、(社)全国鶏卵価格安定基金及び(社)全日本卵価安定基金による価格差補てん事業では、平成 20 年度は 9 月、12 月を除いて標準取引価格が補てん基準価格を下回ったが、補てん限度額を上回ったため、平成 22 年 1 月に減額して交付が終了し、両基金から総額 230 億 8,396 万円の補てん金が事業参加生産者に交付された。

第 15 表 鶏卵価格の推移（東京、M 規格）

月	卸売価格				鶏卵価格安定制度の発動状況			
	20 年度		21 年度		20 年度		21 年度	
	東京 「M」 (円/kg)	対前年 比 (%)	東京 「M」 (円/kg)	対前年 比 (%)	標準取引価 格 (円/kg)	補てん 単価 (円/kg)	標準取引 価格 (円/kg)	補てん 単価 (円/kg)
4 月	193	114.9	173	89.6	188.80	0	163.20	25
5 月	195	116.1	167	85.6	192.31	0	159.01	28
6 月	185	120.1	160	86.5	182.18	2	152.87	34
7 月	193	133.1	154	79.8	193.39	0	151.33	35
8 月	196	124.8	157	80.1	198.25	0	158.58	29
9 月	216	130.1	188	87.0	219.51	0	190.12	0
10 月	211	124.1	184	87.2	212.03	0	182.70	7
11 月	205	117.1	188	91.7	203.34	0	183.69	6
12 月	207	111.3	209	101.0	204.21	0	206.00	0
1 月	149	110.4	151	101.3	140.13	45	140.45	26/21
2 月	186	97.9	194	104.3	179.90	9	186.58	0
3 月	180	92.3	177	98.3	170.25	18	169.29	0
平均	193	115.6	175	90.7	185 (4~6) 191 (7~3)	—	191	—

資料： 全農たまご東京

注 1： 卸売価格は消費税を含まない。

注 2： 鶏卵価格安定制度の平均欄は補てん基準価格